

思考長者

与沢翼 2017年最新版

第8話 21世紀に活躍する人物像

第1話から第7話を通じて

これまで投資シーンのごく一部と前提の考え方をご紹介してきた。

第8話では、これからの時代に求められる人物像として、私が考えていることをお伝えする。

私は時折未来はどうなっていくのかということを考えるようにしている。

そもそも人間の社会生活は紀元後から見ても1700年ぐらいの間はたいして変化していなかった。もちろん新しい文化が生まれたり、多少の器具が生まれたり、といったごく微量の進化はあったが、社会生活が劇的に変化を始めたのは18世紀以降。産業革命以来である。

さらに進むこと近現代。特に変化が著しかったのは、20世紀後半(戦後)である。1950年から2008年リーマンショックまでの世界経済の年間成長率は4%。世界中のインデックスに思考停止で投資していても莫大なリターンがあった。

戦後世界の成長

建築は近代化し、交通インフラが整備され、電気、水道、ガス、電話などは安全に廉価に提供されるようになった。そこに通信革命が起こり、今や情報が飛び交い世界の意思決定の速度は何倍にも早くなったと言える。

つまり、世界は少なくとも18世紀までは眠っていた時代。突如この数百年で全てが変わり、特に、戦後の変化は目覚ましかった。さらに21世紀になると、これまでのどの時代をも超える変化を体験している。世界は強烈な速度で変化、成長していくことが当たり前であるかのようにさえ思われ、人々は変化を楽しむようになった。世界の変化速度は年々高まっている。100年経ってもたいして変わらなかったはずの世界が10年で別世界のように感じられる。

また、情報が氾濫してきているため、人々の動きに一貫性がなくなっているとも思う。情報が人に与える影響はまさに莫大、運命を左右するものであるが、真逆の情報が飛び交う中で人々は決めかねている。手を出しては辞めて、また新しいことに手を出してみる。離婚が増加し、転職が当たり前の時代は、こういう情報に影響を受けている可能性が高いのだ。

これからもっと早くなる

時代の変化は、これからもっと早くなる。

人が移動し、情報が移動し、お金や物が移動する。

チャンスが多くなる。

チャンスが大きくなるということの真意をよく考えてみよう。

例えば、短期相場を例に使うと、ボラが大きい、流動性が大きいと、それだけ儲けるチャンスが多いということ。逆に言うと、それだけ損失を出す可能性も大きいということ。逆に相場が静かであれば、利益もゆっくりと訪れ、損失もゆっくりと訪れる。この時相場が時の経過とともに必ず上がってきた株式市場のみを利用して投資行動をするのが私の言う長期投資だ。

つまり、変化が大きいということは、チャンスが生まれるということ。逆に言うと、変化が大きいとチャンスの逆で損をする人たちもたくさん生まれるということだ。

格差はお題目ではない

私が想像する未来ははっきりしている。

社会はもっと早い速度で変化していく。10年ひと昔が現実となり、2027年には世界の姿は全く別もの思えるものになっていても、おかしくはない。

変化をチャンスに変えて、大きく飛躍する企業、個人がたくさん生まれる。

変化に変化せず損失を受け入れ、じり貧となる企業、個人はもっとたくさん生まれる。

変化よりも半歩早い速度で進むぐらいに対応できないならば、必然としての変化は現状維持者に厳しい。

これからの時代は、個人で目覚ましい飛躍、活躍をする人の数が大幅に増える。

特定少数の輝く個人

これまでの時代は、活躍する個人のほぼ全てが、何等かの企業や団体、組織に属してきた。

そして、その企業、団体、組織が輝けばそこに属する個人も間接的に輝いていた。

つまり、カールマルクスが資本論で唱えたような、資本主義的な生産様式、効率を重視した大規模経済の中で、個人はどちらかというと、二の次にされてきたのである。

だから、これまでの時代において成功する個人と言えば、そんな大規模な効率的企業を生み出す創業一族としての個人か、その組織内で熾烈な競争に勝ち抜いたエリート個人がほとんどだった。

しかし、私は、これからの時代はそうならないと思う。

今後、勇気もあり、知恵もある人間は、企業や組織、団体の外に出ていく。

なぜなら、企業が輝くと個人が輝く、というテーゼについての限界に皆気づいているからだ。

しかしながら当然簡単ではない。

今後個人が台頭し、大企業並みに力を付ける者も現れる。

これが私の考え方であるが、当然、そうなるのは簡単なことではない。

また、大企業並みとは言わずとも、輝く個人となるためには、ある条件を超える必要がある。

それは、高度の専門性を見に付けることである。

専門性がなければ個人が個人として価値提供を行うことができない。

例えば一般的事務処理能力や一般社会人としての教養や知識がある程度では、組織の中で業務の一端を担うことが最も望ましい選択だからだ。

なぜなら、一般的社会人としての素養だけでは、組織外に出た時に、単独で価値提供できないからである。単独で形にならないならば全体の一部として価値貢献に協力するべきであるとされる。

輝く個人の存立条件は一つ

個人単独で何等かの社会的価値を提供できるか、ないしは、単独で経済性を成立させられること。

成功する個人の種類には考えるだけでも色々なものを思い浮かべることができるが、輝く個人が何であるのかを考えるのは、あなたの使命である。

私が提案しているのが投資家の道である。

投資家は、単独で経済性を成立させることができ、学ぶことさえすれば再現性もあるからだ。

つまり、最も合理的で汎用的な選択肢となる。

さらに、どのみち「r」の住人にならなければいけないのであるから、最初からストレートにそこを進むということで、無駄もないと言えよう。

短期トレード、長期投資は面白い

これまで一連の動画でごくわずかな投資をお見せしたが、これからGWBSでは、これを毎日深く学んでいただく。

金融ビッグバンが起きて以来、個人は、世界中の株や通貨に、いつでも、誰でも、コストなく参加できるようになった。

その環境はプロと全く同様の環境である。

この前提の環境にまず感謝すること。

取引市場の値の動き方を学び、株式を学ぶことで、変化に潰されるのではなく、変化を利用することが可能となる。

大切なことは中途半端な理解や曖昧な知識、無知、無思考を脱却し、思考長者になること。

ここからもう一度、投資の世界を覗いていこう。

続きは動画でご覧ください。